中部山岳国立公園　パークガイド

立山・黒部

一般財団法人 自然公園財団

中部山岳国立公園　パークガイド

立山・黒部

たてやま　くろべ

目　次

美しい季節の装い
立山・黒部の四季 …… 2
◆富山は私の体の一部　立川 志の輔 …… 2

雄大な山岳景観と日本有数の大峡谷
中部山岳国立公園／立山・黒部地域のプロフィール …… 10
◆立山・黒部へのアクセス …… 11

中部山岳国立公園
立山・黒部地域索引図 …… 12

北アルプスを貫くアルペンルート
立山・黒部へのアプローチ …… 14
◆市立大町山岳博物館 …… 14
◆富山県[立山博物館] …… 15

立山・黒部エリアの案内役
立山自然保護センターで学ぶ …… 16
◆雪の大谷 …… 16
◆人と自然をつなぐ　富山県のナチュラリスト …… 17

自然探勝路ガイド①
室堂平・エンマ台コースを歩く …… 18

高山の環境に適応した鳥
ライチョウ …… 20

自然探勝路ガイド②
弥陀ヶ原コースを歩く …… 22
◆立山カルデラ展望台 …… 22
◆松尾峠展望台 …… 23

自然探勝路ガイド③
美女平コースを歩く …… 24

室堂平を起点に登る
立山周辺の登山 …… 26
雄山／立山縦走／奥大日岳～大日岳／五色ヶ原／剱岳／仙人池～櫛平へ

見どころあれこれ
黒部湖周辺ガイド …… 28
黒部湖・黒部ダム／黒部湖をめぐる遊覧船／四季の移ろいが楽しめる黒部平／素晴らしい眺望が広がる大観峰
◆御山谷半島遊歩道 …… 29

立山・黒部の成り立ちと氷河地形
北アルプス立山黒部の景観 …… 30
◆立山カルデラ砂防博物館 …… 30
◆国指定名勝・天然記念物　称名滝 …… 31

四季折々美しい景観が展開する
黒部峡谷を訪ねる …… 32
日本一深い谷、黒部峡谷／厳しい自然が育む「美」と「恵み」／秘境黒部と人間とのかかわり／深山幽谷を分け入る、黒部峡谷鉄道／トロッコ電車沿線の見どころ
◆櫛平ビジターセンター …… 33
◆水平歩道と旧日電歩道 …… 35

立山・黒部の動物たち
生きもの図鑑 …… 36
鳥類／哺乳類／チョウ類

立山・黒部の可憐な花たち
花図鑑 …… 38

立山・黒部の歴史①
立山・黒部の歴史と文化 …… 44
立山の信仰的景観／立山信仰の成立と展開／日本アルピニズム黎明期の舞台・立山

立山・黒部の歴史②
立山黒部アルペンルートの成立過程と自然保護の歩み …… 46
電源開発と地域開発／立山の自然環境を守るために

主要機関・交通機関・観光案内問い合わせ一覧 …… 48

●自然探勝路ガイド①
室堂平・エンマ台コース（一周約3km／約2時間）

立山は、国家鎮護を祈る修験の山から近年の立山登拝まで、連綿と登り続けられた霊山である。本来、室堂は地名ではなく、宿泊施設「室堂」という建造物を指す。

ここは、歴史文化、自然など野外博物館の中心地。事前に立山自然情報センターに立ち寄り、情報を仕入れてから歩きたい。

1 供養塔

立山自然保護センターを出ると、左手に「立山玉殿の湧水」がある。立山直下から湧出し、日本名水百選にも選ばれている清水だ。

そこを過ぎ、室堂平の中心にある広場へと進もう。周囲は、チングルマやイワイチョウなど、高山植物のお花畑となっている。歩道以外は立ち入らないようにしよう。

供養塔は高さ五・三メートル。室堂平は冬季七～八メートルの降雪があり、塔の頭が顔を出すのは五月中旬頃である。この塔は、遭難した人たちの供養のために昭和十一年に建立されたもの。塔の四面に梵字、造立年などが陰刻されている。

2 室堂平の石仏・石碑

一ノ越への登山道へ進み、「室堂」の建物を目指して行くと、石祠内に石塔が祀られている。台座に「三十二番」とあり、西国三十三所観音霊場の分霊である。塔身に千手千眼観音を浮き彫りした笠塔婆型の塔で、文化八年の造立年が刻まれている。里の岩峅寺を基点に、三十三体が道中に安置されている。

西国三十三所分霊32番

最終の「三十三番」はかつてのザンゲ坂にあるが、道を浄土山側に移したために、行って見ることはできない。また、玉殿岩屋への道入り口には「アビラウンケン」と梵字真言を薬研彫りした自然石もある。これら室堂平に点在する石仏や石塔群は、立山信仰遺物としてすべて富山県の文化財に指定されている。

3 国指定重要文化財「室堂」

修験者や立山参詣者の籠堂がこの「室堂」だ。平成四～五年に解体修理されて新しく見えるが、文献上で知られる造立年は、北堂が享保十一年（一七二六年）、南堂は明和八年（一七七一年）との記録がある。現存する日本最古の木造山小屋とされる。

一棟に三十本の柱で建てられ、一尺角の立山杉の柱の表面は、煙や煤で黒光りし、長い利用の年月を感じさせる。加賀藩の直轄造営になるもの。基礎部の発掘調査により、十世紀から十七世紀をピークとする遺物が発見された。堂内は自由に見学できる。

4 玉殿岩屋と虚空蔵窟

虚空蔵窟

立山開山の祖・佐伯有頼が立山権現から啓示を受けた聖地。伝承では白鷹と熊に導かれてたどり着いたのが玉殿岩屋とされ、白鷹は不動明王に、黒熊は阿弥陀如来となって示現し、立山の開山を諭したという。

古来、立山参詣者は必ずこの聖地を参拝した。平成二十三年に一部発掘調査され、珠洲焼き、土師器、江戸時代の貨幣など中世から近世までの遺物、柴灯護摩を焚いたと思われる焼土跡などがあり、ここは祭祀場であったことが確認された。

洞窟周辺の板状節理は、仏の座る蓮華座に見立て「蓮華岩」と呼び、近くにある小滝は「来迎の滝」、手前の羅漢石仏を安置する洞窟は「虚空蔵窟」とされる。

この両窟に生育するヒカリゴケは、昭和六十一年に発見記録され、富山県で最高所に生育するもの。氷河期からの遺留種とされる貴重な蘚苔植物である。

5 ミクリガ池とミドリガ池

立山の雄姿を湖面に映す二つの池は、どちらも水蒸気爆発によってできた爆裂火口湖である。

ミクリガ池の名は、立山権現の神饌を調理する台所「御厨」から。ミドリガ池は、この水を水垢離や写経用の水に用いたために「水取り」の転化した命名などの説がある。

ミクリガ池

室堂平全景

エンマ台を中心とした浄土山と地獄谷

6 エンマ台

地獄谷の噴煙を見下ろす台地がこのエンマ台だ。閻魔大王が冥府の十王とともに、地獄に堕ちた亡者をここで裁くとされる。

立山の地獄は、古代説話集の「大日本国法華経験記」、『今昔物語集』に語られており、日本国中に知れわたる畏怖された名所である。

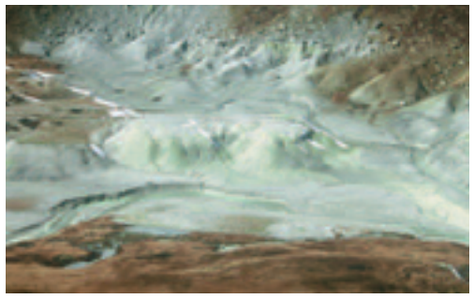
立山第四期の火山活動により水蒸気爆発した火口で、かつては湯泉湖だったが、その両端が決壊して地獄谷が形成された。

エンマ台からは地獄谷の噴煙や地獄の浄土とされる伽羅陀山、川が谷の中の分水嶺によって、左右に分かれて流れる様子、活発な火山活動などがよく観察できる。エンマ台の東に「血の池」地獄があり、かつては施餓鬼供養も行われたという。なお、みくりが池温泉前から続く地獄谷歩道は噴気活動が活発化しているため、当面通行禁止とされている。

山崎カール

7 山崎カール

地獄谷の反対側、立山方向に目を向けてみよう。立山雄山直下にスプーンで削ったような地形が見える。これが氷河地形の山崎カールだ。明治三十七年（一九〇四年）、東大地理学者の山崎直方によって発見され、昭和二十年（一九四五年）に天然記念物に指定された。



エンマ台から見た地獄谷の堆積物

主峰立山の東面には「真砂沢カール」、「御前沢カール」、「内蔵助カール」などのカール地形があり、近年、このカールに氷河が現存することがわかった。

8 ライチョウの生息域

室堂平を中心とする約千ヘクタールに、約三百羽のライチョウがすみ、生息密度が高くなっている。このことから室堂平から眺める山域すべてがライチョウの生息域といえる。

ライチョウのなわばり形成期の四～六月は、オスのライチョウが飛び回り、あちこちから鳴き声が響いて、ライチョウを観察するには最適期。周囲のハイマツ群落はライチョウにとってはかくれ家であり、休息地でもある。また、メスの産卵育雛の重要な場所となり、ライチョウ保護柵が設置されている。